

応募作品一覧

	(単位：点)					
部門	絵画	彫刻	書	工芸	写真	計
作品数						
応募数	184	6	31	25	70	316
入賞入選数	163	5	22	16	54	260

運営委員長	内田いず美 （浜松市美術館協議会会長）
審査員	
絵画	内田あぐり （日本画家） <p>石黒賢一郎（広島市立大学芸術学部准教授）</p>
彫刻	田中 毅 （彫刻家）
書	広瀬 舟雲 （武蔵野大学教育学部教授）
工芸	山本 一樹 （工芸作家、静岡文化芸術大学名誉教授）
写真	大森 克己 （写真家）

ごあいさつ

内田いず美

第71回市展を開催できますのも、市展に応募されました316名の皆様方、そして公私ともにご多用にもかかわらず、浜松市美術館へご来館いただきました皆様方のおかげです。皆様方に敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて、今私たちをとり巻く世界は、紛争・自然災害・異常気象等混んととしていて先が見えません。だからこそ、誰もが安心して豊かな交流にあふれた生活ができる社会を願っています。今回応募された作品には、その願いが溢れているのを感じました。制作者の皆様は、ご自身の作品と真摯に向き合い、今の思いを全力で作品に込められたことと存じます。
今回の応募作品につきましては、昨年の点数を上回ることができました。どの作品も観る者を引き込み、豊かな気持ちにさせていただける力作ばかりで、スタッフ一同喜びに堪えません。
入賞・入選は全体で28点・232点あり、部門大賞を選び、その中から浜松市長大賞を選ばせていただきました。

その結果、今年度は彫刻部門の作品『鍵盤からの試み』（山口貴一さん作）が浜松市長大賞に選ばれました。作品を前にすると、木のぬくもりや重厚感、そして、何かユーモラスなフォルムに心が癒されます。作者の遊び心や細部へのこだわりもじっくりと味わっていただけたらと思います。

ここ何年かは、新型コロナウイルス感染症対策で、会期中は美術館へのご来館に制約を設けていましたが、やっと通常の生活が戻ってきました。ご来館された皆様一人一人が、伸び伸びと展示作品と向き合い対話をし、感性を磨いていただけることと思います。この市展がその機会に寄与出来ますことを願っています。

審査評

内田あぐり

今年度の浜松市展に応募された作品は、とても元気がある活気に満ちた作品ばかりでした。何よりものびやかで、豊かな色彩感覚に溢れている絵が多く、奨励賞を選ぶのに大変迷いました。高校生や若い方達の絵と思われるものが印象的で、自由な発想と表現や、失敗を恐れずに描いている潔さがあり、現代美術にも通じる可能性に富む表現が見受けられました。大賞受賞となった松本忠雄氏の《ウクライナへの侵攻》は人間像を真正面から取り組んだ力強い作品で、簡略化した中にもデッサン力と画面の構成力があります。時代性に取り組んだ作者の意図がストレートに現れていました。《ささゆりの里》は日本画の顔料や岩絵具で描かれた美しい絵画です。植物や森の表現が素朴で、作者の自然へ向ける素直な眼差しを感じます。岩絵具の手法も自由で独自性がありました。他には《四色の愛》の水彩画の美しさ、《叢雲》の大胆な表現、天竜浜名湖鉄道の駅を描いた作品など、紙面に限りがあり書けなくて残念なのですが、応募された作品に明るい未来と可能性を感じました。

絵画

石黒賢一郎

本当の意味で絵画として存在するためには、その作品が唯一で再現不可能なものとなる必要がある。それがトレンドであったり、表現されているものが何であったとしても、そこにしかない存在であることが、紛れもなくその作者の作品であることの証明となる。これは探して見つかるものではなく、すでに出会っているのである。

大賞に選出された「ウクライナへの侵攻」は世相をダイレクトに表現し、人物の表現とコンセプトが作品の強度に繋がっている作品であった。背景表現も国旗をデザイン的に扱いながら作品をまとめ

あげ、時代を反映しながらも強固な存在感を放っていた。

奨励賞の「巡礼」は水彩による独特なマチエール表現で、人物群と物体の存在感、そして白黒のトーンの美しさに強く惹きつけられた。人間の限界とは想像力の限界であり、そこに制限を設けてはならないことを体現した作品であった。

他にも、それぞれの作り手の熱意が感じられる作品が数多くあり、「天球」、「免許返した人、これから取る人」、「軍艦島の記憶」など、気になる作品が多数あった。

今回の応募作品は作者自身の世界観を絵に投影しようとする真摯な姿勢が垣間見えるものが多く、審査を担当できて光栄だった。

彫刻

田中 毅

応募作品は少ないですが、内容はおもしろい作品が並んでいました。一点だけ、飾るのが不安定で危なく、メリハリもなくて外させてもらいましたが、テーマは興味がありました。

市長大賞の「鍵盤からの試み」は、作品がどっしりと重量感があり歩き出しそうでユーモラスで素材の心地良さが良く、欲を言えばもう少し動きが欲しい。奨励賞の「チーター」は造り方がおもしろいですね。何かを捜しているようで、安住の地を求めているのかなって。「世継誕生」は力のある人が制作されたと思いますが、伸々とした楽しさ、軽やかさが個人的には欲しかったし、次回作が楽しみな作品です。二点の首は何かしら魅力のある表情が欲しい、ほほえみはありますが、見る人に何かを伝えて欲しい。個人的には惚れてしまいそうな作品にして欲しいです。
浜松は初めてでしたが、少ない応募ながら充実した作品でした。次の展覧会も楽しみです。ありがとうございます。

書

広瀬舟雲

伝統的な書の基本は正しい字形で書かれていることです。特に草書と篆書ですが、1字づつ古典の書が掲載された字典で必ず調べてから書いてほしいと思います。怪しい崩しや字形が散見しました。また書の技的には高いレベルでも釈文と照合すると脱文や相違あるものは残念ながら入選を遠慮してもらいました。出品前に必ずよく確認・照合してください。

今回、珍しく前衛書の出品がありました。これについては大いに線と造形の美を探究してください。大賞の大石さんの作品は、繊細かつ動きのある非常に鍛錬された線質で余白を存分に生かした構成が見事な傑作。奨励賞の河島さんの漢字作品は、古典の漢字書をよく鍛錬し何紹基風な熟達した筆致に高めた点が魅力。同じく奨励賞の金山さんの漢字仮名交じりの書作品は、品よく丁寧に真面目に取り組んでいるところに妙趣を感じました。次点では浜松城の陣太鼓が聴こえてくるような澆刺とした書に個性の表出を見ましたが、更に直線的な要素があればと思いました。漢字・仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・前衛とバラエティーに富んだ作品群を拝見しうれしく思いました。出品された皆様の今後ますますのご精進を楽しみにしております。

工芸

山本一樹

昨年に引き続き工芸部門の審査を担当させていただきました。今回も一般的に言われている「工芸」の分野には取まりきらない素材と表現技法の作品が数多く出品され、その審査は困難を極めました。

審査は、形の美しさや緊張感、デザインの独自性と素材を扱う技法の習得度に加え、作品へのこだわりが強く感じられるかを判断基準にしました。
奨励賞の曾布川千佳子さんの「もみじ紋大皿」は、確かなろくろ技術に加え、もみじ文様の表現に爽やかさを感じました。山口万寿美さんの「藍染、絞り」も、藍染独特の魅力的な色合いに加え、絞りのデザインが作家のセンスの良さを感じさせてくれました。
工芸作品の表現は多種多様に及びます。今回応募が無かった金属やガラスは、大掛かりな設備が必要で取扱いは大変ですが、その分、素材の魅力に溢れています。今回はぜひ挑戦して欲しいところです。多くの方々が様々な素材のアートに興味を持ち、この地域が文化的に一層豊かになる事を期待します。

写真

大森克己

上位に入賞された方々の作品は光とフォルムを平面に定着させるという写真の機能の根源的な力を思い起こさせるものでした。撮影者の意図を超えた何かが映り込む、映り込んでしまう写真の不思議な魅力も改めて感じました。

上杉三奈さんの光と色彩に対する感受性、カワセミの生態への深い洞察力を感じる稲垣亨さん、竹内研人さんの実験精神、高山申二さんのユーモア、鈴木久俊さんの自然と向き合う姿勢、それぞれにとっても素晴らしいと思いました。
選考の過程で、もう少し21世紀的なモチーフを探求した作品も見なかったという気持ちもあります。これだけの情報化社会のなかで、多くの人々が既に撮ってしまっているモノや場所よりも、誰も見たことの無い、ほかならぬ自分自身にとってのかけがえのない特別な場所や時間があるのではないのでしょうか？それは、ひょっとしたら有名なお祭りや観光地ではなく、日々の暮らしのなかでの、一見退屈に思える時間のなかでの何かとの出会いかもしれません。
受賞者を含めた応募者のみなさんにお願したいのは、タイトルについてもう少し深く考えていただけたとうれしく思います。タイトルは写真の説明ではなく、写っているものの解説でもありません。当たり前と思いつ込んでいる日常、人間、そして自然に対してポジティブな問いかけや発見を投げかけている素晴らしい写真作品に対して相応しい言葉を探してみてください。

令和5年度

令和5年度

浜松市

第71回

市展

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

開催期間 **令和6年2月10日(土) — 3月13日(水)**

開催時間 **午前9時30分 — 午後5時**

会場 **浜松市美術館**

主催**：****浜松市**

※作品番号と展示の順番は、必ずしも一致しません。

Table with 5 main columns: No., 賞, 作品名, 作者氏名, and 受賞. It lists various artworks across multiple categories including 絵画 (油彩画), 絵画 (日本画), 絵画 (その他), 彫刻, 書, 工芸, and 写真. Each entry includes a title and the artist's name.